

四国高等学校なぎなた選手権大会に向けた感染拡大防止ガイドライン

徳島県高体連なぎなた専門部

1 大会を開催するにあたって

大会の開催に際しては、参加者を中心とした関係者全員の安全・安心を最優先し、「四国高等学校体育連盟主催大会における新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する基本方針」に基づいて行うこととする。

- (1) 大会等が開催される場所の適切な感染予防対策等の実施
- (2) 密閉空間・密集場所・密接場面等の感染リスクが高い状況の回避
- (3) 感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力

以上3つのリスクへの対応を整えた上で実施する。

開催直前であっても、その時点の全国や四国四県の感染状況に応じて、大会の急な中止もあり得る。

2 大会中の具体的な感染防止対策

(1) 基本的な感染対策

- ア 競技会場等において、手洗いや咳エチケット（マスク着用）などの基本的な感染症対策を徹底する。
- イ 会場出入口には消毒薬を設置し、トイレに石鹼等を準備する。
- ウ 主に参加者の手が触れる場所をアルコールや次亜塩素酸ナトリウムを含有したもので定期的に拭き取る。
- エ 密閉空間を避けるため、会場の窓は開けておくなど外気を入れて換気を行う。空調や衣服による温度調節を行う。また熱中症にも注意する。会場への出入りは動線を確保する。
- オ 密集場所を避けるため、会場内での人との間隔は1～2メートル程度あけさせる。更衣室の利用も一度に大人数にならないようにし、短時間にさせる。他人との身体接触を避けさせる。
- カ 開会・閉会式は簡素化し、開始式・表彰式のみとする。
- キ 当日は、選手及び役員に、事前に配布する「健康調査票」を提出させる。
- ク 当日は、発熱等の症状が見られる参加者はすみやかに退出させ帰宅させる。
- ケ 大会に参加した者の中に感染者が出た場合には、その他の参加者に連絡をとり、症状の確認をし、場合によっては保健所などの公的機関に連絡を取る。
- コ 大会に参加した選手、役員は、保健所などの聞き取りに協力する。また濃厚接触者となった場合には、接触してから2週間を目安に自宅待機する。
- サ 競技や練習中の水分補給に関しては、チーム共用を避け、個人のものを使用する。
- シ 用具（なぎなた、防具、手拭い等）は個人のものを使用する。他人と共有しない。
- ス 試合中のマスク脱着（コロナマスク）は参加者の意思に任せる。試合中以外の際はマスクを着用する。
- セ マスク着用による熱中症に留意し、こまめに水分補給をする。飲み物は各自用意する。
- ソ 各自のゴミは持ち帰る。（マスク、鼻水、唾液などが付いたもの、食べ物のゴミなど）

(2) 当日、参加者に発熱等の風邪の症状がみられる場合の対応

- ア 発熱等の症状がみられる場合、大会への参加を認めない。（事前に注意喚起しておく）
- イ 当日、急に症状が出た場合には、顧問または団体所属長が保護者に連絡し帰宅させる。
- ウ 引率者には、他の参加者の健康観察を徹底させる。

(3) 応援について

原則、無観客での開催とし、拍手のみでの応援にする。大声での応援はしない。

- ※ その後、コロナウイルスに感染したことが確認された場合は、各学校や行政機関の指示に従う。その後の大会等について中止することがある。